

たまがわ新聞



発行者:
たまがわ高等支援学校
校長 富永 誠
〒578-0925
東大阪市稲葉 2-3-25
電話(072)961-4730
FAX(072)961-4788
地域支援部

何も咲かない寒い日は 下へ下へと根を伸ばせ やがて大きな花が咲く

シドニーオリンピック女子マラソン金メダリスト

高橋尚子さんの大好きな言葉

9期生の皆さん「卒業おめでとうございます。私は皆さんを入学の時から知っています。2年生の長崎への修学旅行にも一緒に行きましてね。あの時はどうもありがと。私もいい思い出ができました。1年生の間は中学生のような様子でしたが、学年が上がるにつれ心も体も大きく成長し、今では本当に頼もしく見えます。保護者の皆さん、お子様の「卒業誠におめでとうございます。この日を迎えられるまで幾多の困難があったかと思いますが、それでもこのように立派に育てあげられましたことに敬意を表します。皆さんは、たまがわでの3年間で多くのことを学びました。『就労を通じて社会的自立をめざす』という学校の目標に向けて、日々の授業、バックツーパーや修学旅行を中心とする将来の自立へ向けての行事、たまがわフェスティバル、体育・文化の部やたまがわランドなど地域への参

信の行事、みんなで頑張ったオールブラックス賞など、その都度仲間と力を合わせて頑張る心身に育りました。この力は皆さんの今後の人生に大きな財産となっていくでしょう。反対に、嫌なことを、つらいことも同じようにたくさんあったのではなかったでしょうか。そのたびに先生や保護者と相談し、何より心を許せる友達に相談し、何とか乗り越えてきました。いよいよ卒業ですが、皆さんが飛び出していく社会は決してよいことばかりが待っているわけではなく、悲しいことがあったら、たまがわのことを思い出して、しっかりと乗り越えてほしいと思います。星野富弘さんという方がおられます。中学校の体育の先生でしたが、不慮の事故で頸椎を骨折し首から下は全く動かなくなっていました。そんな中、わずかに動かすことができる口を筆をくわえて生きていることの深い思いを



校長 富永 誠

自然の草花に託して詩や絵を描き続けておられます。星野さんは、ある作品に「木」は自分で動きまわることにはできない。神様から与えられたその場所、精一杯胸を張り、許された高さまで一生懸命伸びようとしている。そんな『木』を私は友達のように思っている。』という言葉を添えしました。どんなにつらい時でも、希望を持ち力強く生きようとしている気持ちがよく表されていて勇気づけられます。これから社会に飛び出していく皆さん、たまがわで身につけたことを十分に発揮し、新しい世界で思う存分に頑張ってくださいと思います。未来ある若者に幸あれと願い、はなむけの言葉とします。

卒業生へ

3月の入学説明会の時が9期生のみなさんの最初の出会いでした。制服などの採寸が行われてこの高校に通うのを実感したのだと思います。4月の入学式は初めての晴れ舞台。真新しい制服に身を包んで緊張しながら、式に臨んでいたみんなの面々を懐かしく思い出されます。新しいクラスと新しいクラスメイト、新しい担任。何もかもが新しく慣れるまでに時間がかかったことでしょうか。宿泊研修、バックツーパーを経て

9期進路より



3年前の4月にたまがわに入学した9期生もあつたう間に卒業を迎えました。時間が経つのは早く、特に年が明けてからは一日一日が過ぎる淋しさを感じるとともに、社会に羽ばたく9期生の背中が大きく、頼もしさも感じさせてくれました。9期生は1年生の頃からたくさんキャリア「学習」をしてきました。私たちが教員の立場からすればキャリア「教育」と呼んでいるのですが、「自分の進路に対して主体的

に学んでほしい」という願いも込めて、教員が行う「教育」ではなく、生徒が学ぶ「学習」と名付けて行ってきました。そして各学年での職場実習や見学を経て、生徒たちは社会のマネーや働く姿勢、自分が頑張るべきことを体感してきました。職場実習が終わった後に、登校してくる生徒たちの表情には学年が上がるにつれ「充実感」と「責任感」が備わり、本心に成長していました。そして常に目標を立てて、その達成に向けて努力を続けてきました。努力をする姿、その先の成長した姿を見ることが学年教員にとっても楽しみになっていました。

3年生の3月に最後のキャリア学習を行いました。テーマは「社会人への決意表明」。たまがわでは初めての試みですが、保護者の方も抱いて、社会人になる決意を生徒たちに自分の言葉で話してもらいました。涙を流しながらこの瞬間になっている保護者の方も・・・この日のキャリア学習が生徒たちの心に深く残り、社会人として生きていくときの糧になつてくれることを本当に願っています。そして新しい環境でもたまがわでの経験を思い出して立派に社会で生きていくことを心から楽しみにしています。進路支援部 三宅 亮

たまがわフェスティバルの頃にはすっかりたまがわ生になっていました。初めての職場実習も経験し、戸惑いが多かった1年生が終了しました。2年生では先輩という立場になり、2回の職場実習を経験し、人間として大変成長しました。それは2回目のたまがわフェスティバルにおいて実働生として最大の行事を取り仕切り、大変でしたがその成功により自信が生まれ、精神的成長が大いに促されました。この由來します。2月の修学旅行には行き先の変遷もあつたけれど、大変楽しかった思い出がいっぱいありました。みんなの心に深く刻まれていると思います。学生としての学年は一番充実していたと感じています。

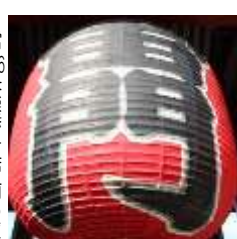
3年生に進み、遂に本場の就労に向かっている挑戦が始まりました。6月の職場実習が終わって、すぐに9月の職場実習でした。気持ちの上で大変だったと思います。私がずっと言い続けてきたこと、「まわりの人達のことを大事に思える人間になって欲しい」をみんなは体現してくれていたと実感しています。就労して自立するのは自分自身だけでなく、そのことを気にかけて応援してくれるのは、まわりの人達です。自分ひとりで生きているだけではない。これから送るため、自分本位にならずに、人を思いやる余裕が持てるよう努力を惜しまないでください。9期生のみんななら必ずできます。卒業おめでとう。3 学年主任 石田 亘

修学旅行

平成 29 年 2 月 1 日～3 日まで、2泊3日で東京方面へ修学旅行に行きました。

「1日目」

新大阪に集合し、新幹線で東京駅に無事到着しました。到着後はバスで移動し、浅草寺に向かいました。



雷蔵茶屋で江戸前そばを食べて、雷おこし作りと浅草寺周辺散策をしました。雷おこし作りは、関西ではない言葉で説明をしてくれること新鮮な感覚を覚えながら、一生懸命に取り組みました。



その後は、江戸東京博物館へ行きました。

「活動時間が短かった・・・」という声が多くありました。が、熱心に東京の文化を学んでいました。

「2日目」

ホテル内で90分のデイスニアアカデミーを受講し、デイスニーで働くキャストの方から働く上で大切にしていることを学びました。そしてデイスニアアカデミーで学んだことを実際の接客に触れながら体験しました。自分たちで決めたグループで、ファストパスをうまく使いながら多くのアトラクションを回ることができました。



「3日目」

クラスごとの東京バックツーパー(PT)です。クラスで相談して決めた行き先である国会議事堂やスカイツリー、お台場や秋葉原などを電車で移動しながら巡りました。初めての東京での電車移動や知らない土地での集団行動など、色んな体験をすることができました。

修学旅行係 北川 力也

